

市指定

所在地：黒田

かえんほうじゆかんそうしゃりずし

## 火焰宝珠嵌装舍利厨子

仏舎利ぶつしゃり信仰に基づく舎利の荘厳は、塔に代表される大型のものがある一方、古代、中世を通じて舎利容器や舎利厨子などの工芸としても発展した。

当舎利厨子は、室町時代の典型的なもので、中央の水晶窓は彫金の火焰宝珠で装飾され、両扉には菩薩像が描かれている。当時流行した嵌装の舎利荘厳の一つとして貴重なものである。

背面に「奉寄進地蔵菩薩御宝前高樋讃岐律師實如永禄元戊午年月日」の朱書があり、西暦1588年、安土桃山時代の製作であることが確認できる。

高さ20cm、幅17cm、奥行12cm。

